

# 1 人口動態の概況（平成21年1月～12月）

## (1) 出生数<減少>

出生数は59,725人で前年に比べ795人減少し、出生率は人口千人に対し8.5で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

## (2) 死亡数<増加>

死亡数は52,374人で前年に比べ644人増加し、死亡率は人口千人に対し7.4で前年と同率であった。

## (3) 乳児死亡数<減少>

乳児死亡数は140人で前年に比べ24人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し2.3で前年と比べ0.4ポイント低下した。

## (4) 自然増加数<減少>

自然増加数は7,351人で前年に比べ1,439人減少し、自然増加率は人口千人に対し1.0で前年と比べ0.3ポイント低下した。

## (5) 死産数<減少>

死産数は1,400胎で前年に比べ52胎減少し、死産率は出産(出生+死産)千人(胎)に対し22.9で前年と比べ0.5ポイント低下した。

## (6) 周産期死亡数<減少>

周産期死亡数は235人(胎)で前年に比べ29人(胎)減少し、周産期死亡率は出産千人(胎)に対し3.9で前年に比べ0.4ポイント低下した。

## (7) 婚姻件数<減少>

婚姻件数は39,399件で前年に比べ1,205件減少し、婚姻率は人口千人に対し5.6で前年に比べ0.2ポイント低下した。

## (8) 離婚件数<増加>

離婚件数は14,584件で前年に比べ472件増加し、離婚率は人口千人に対し2.07で前年に比べ0.06ポイント上昇した。

表-1 人口動態の概況（対前年比較）

	埼 玉 県											
	平成21年	平成20年	増 減	率			平均発生間隔					
				平成21年	平成20年	増 減	平成21年		平成20年			
							時 分 秒	時 分 秒				
出 生	59 725	60 520	△ 795	8.5	8.6	△ 0.1	8	48	8	43		
死 亡	52 374	51 730	644	7.4	7.4	-	10	2	10	11		
乳児死亡	140	164	△ 24	2.3	2.7	△ 0.4	62	34	17	53	33	40
新生児死亡	65	67	△ 2	1.1	1.1	-	134	46	9	131	6	16
自然増加	7 351	8 790	△ 1 439	1.0	1.3	△ 0.3	...			...		
死 産	1 400	1 452	△ 52	22.9	23.4	△ 0.5	6	15	26	6	2	59
周産期死亡	235	264	△ 29	3.9	4.3	△ 0.4	37	16	36	33	16	22
婚 姻	39 399	40 604	△ 1 205	5.6	5.8	△ 0.2	13	20	12	59		
離 婚	14 584	14 112	472	2.07	2.01	0.06	36	2	37	21		

## 2 各 論

### (1) 出 生

#### ア 出生数及び出生率

平成 21 年の出生数は 59,725 人で前年より 795 人減少した。

年次推移をみると、昭和 48 年の 106,008 人をピークに平成 2 年まで減少し続け、その後増加と減少をくり返していた。平成 13 年から 5 年連続減少し、平成 18 年は 6 年ぶりに増加したが、平成 19 年からは再び減少を続けている。

出生率は、人口千人に対し 8.5 で前年の 8.6 を 0.1 ポイント下回った。また、全国 (8.5) と同率であった。

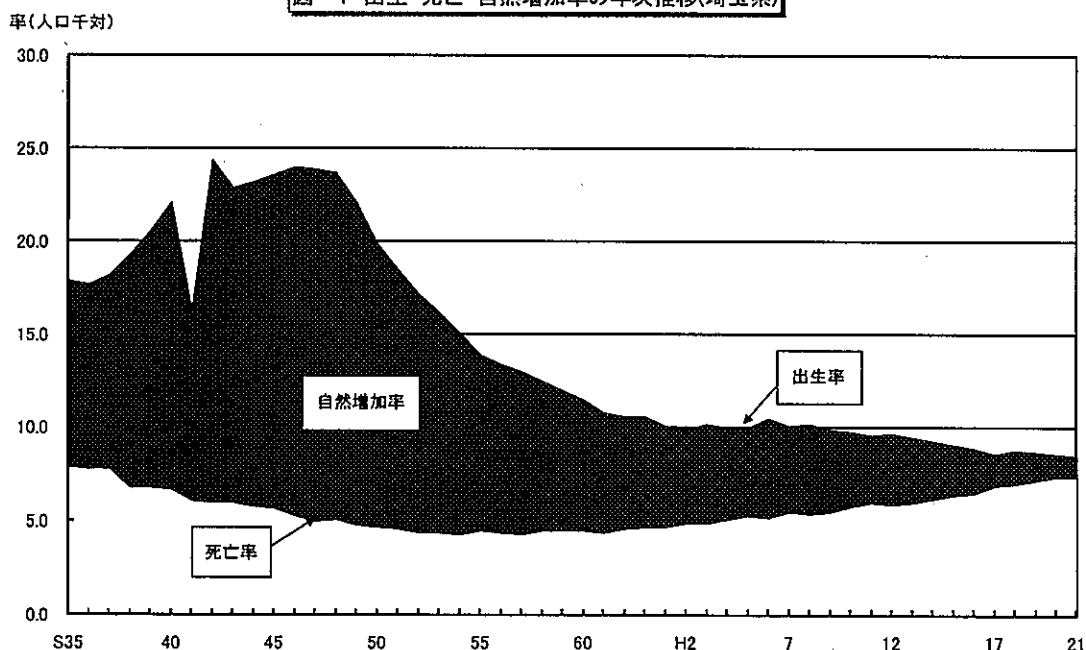
年次推移をみると、第 2 次ベビーブームの昭和 46 年の 24.0 で低下を続け、平成元年に 10.1 となり、その後 10.0 前後で推移していた。平成 13 年から 5 年連続減少し、平成 18 年は 6 年ぶりに増加したが平成 19 年からは再び減少を続けている。

なお、昭和 41 年にみられる出生率の低下は、丙午 (ひのえうま) によるものである。

表-2 出生数及び出生率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	20	21
数														
埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	61 201	60 818	60 520	59 725
全国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 565	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 092 674	1 089 818	1 091 156	1 070 035
率														
埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.8	8.7	8.6	8.5
全国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.7	8.6	8.7	8.5

図-1 出生・死亡・自然増加率の年次推移(埼玉県)



## イ 都道府県別にみた出生率

本県の出生率は、平成3年以降はわずかながら全国を上回る状態であったが、平成20年は再び全国を下回り、平成21年は同率となった。

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後回復し、平成7年には4位となったが、近年は、平成19年18位、平成20年22位、平成21年20位となっている。

図-2 出生率の年次推移(埼玉県・全国)

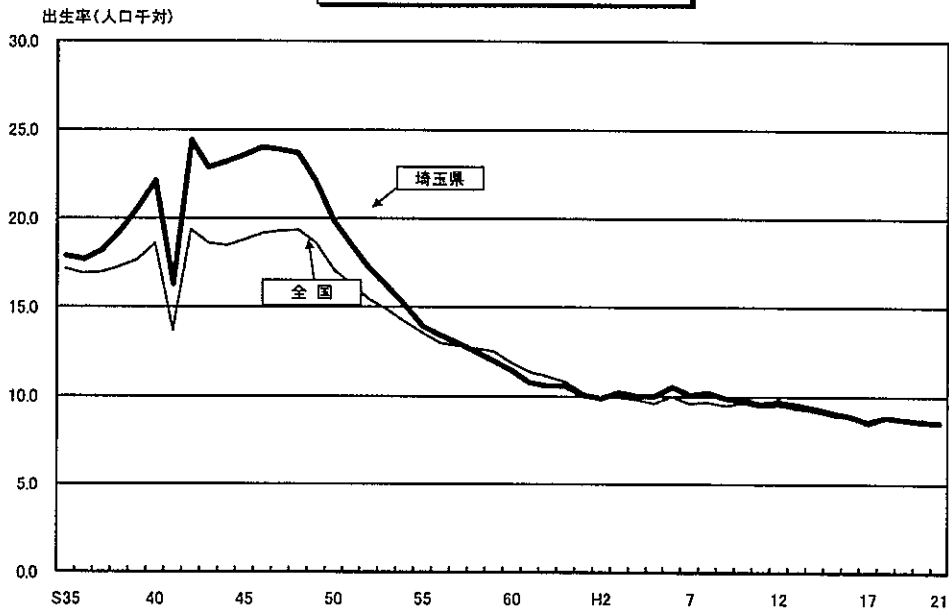


表-3 都道府県別にみた出生率

	昭和60年			平成2年			平成7年			平成12年			平成17年			平成19年			平成20年			平成21年					
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位			
	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4		全 国	8.6		全 国	8.7		全 国	8.5				
高 順	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1	沖 縄	12.1	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.2	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2	愛 知	9.8	2	愛 知	9.9	2	愛 知	9.9	2	愛 知	9.7	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3	滋 賀	9.7	3	滋 賀	9.8	3	滋 賀	9.8	3	滋 賀	9.5	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4	福 岡	9.1	4	福 岡	9.3	4	福 岡	9.3	4	福 岡	9.2	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5	広 島	9.1	5	佐 賀	9.2	5	広 島	9.2	5	広 島	9.0	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6	宮 崎	9.1	6	宮 崎	9.1	6	宮 崎	9.1	6	宮 崎	9.0	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7	神 奈 川	9.0	7	熊 本	9.1	7	熊 本	9.1	7	熊 本	9.0	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8	佐 賀	9.0	8	鹿 児 島	9.0	8	鹿 児 島	9.0	8	佐 賀	8.9	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9	熊 本	9.0	9	神 奈 川	9.0	9	神 奈 川	8.9	9
	熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10	静 岡	9.0	10	広 島	9.0	10	福 井	8.8	10	福 井	8.8	10
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18	埼 玉	8.7	18	埼 玉	8.6	22	埼 玉	8.5	20	埼 玉	8.5	20
低 順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.4	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.3	2	徳 島	7.3	2	青 森	7.2	2	青 森	7.3	2	青 森	7.3	2	青 森	6.9	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3	高 知	7.3	3	北 海 道	7.4	3	北 海 道	7.4	3	高 知	7.1	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4	北 海 道	7.5	4	徳 島	7.5	4	北 海 道	7.5	4	北 海 道	7.3	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	鳥 取	8.8	5	鳥 取	8.6	5	高 知	7.5	5	徳 島	7.6	5	高 知	7.5	5	高 知	7.5	5	岩 手	7.4	5

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、伊奈町（12.6）、滑川町（12.3）、戸田市（11.4）  
和光市（11.3）の順である。また、低率順では、ときがわ町（3.9）、鳩山町（4.0）、  
東秩父村（4.0）の順である。

表-4 市町村別にみた出生率（高率順）

埼玉県

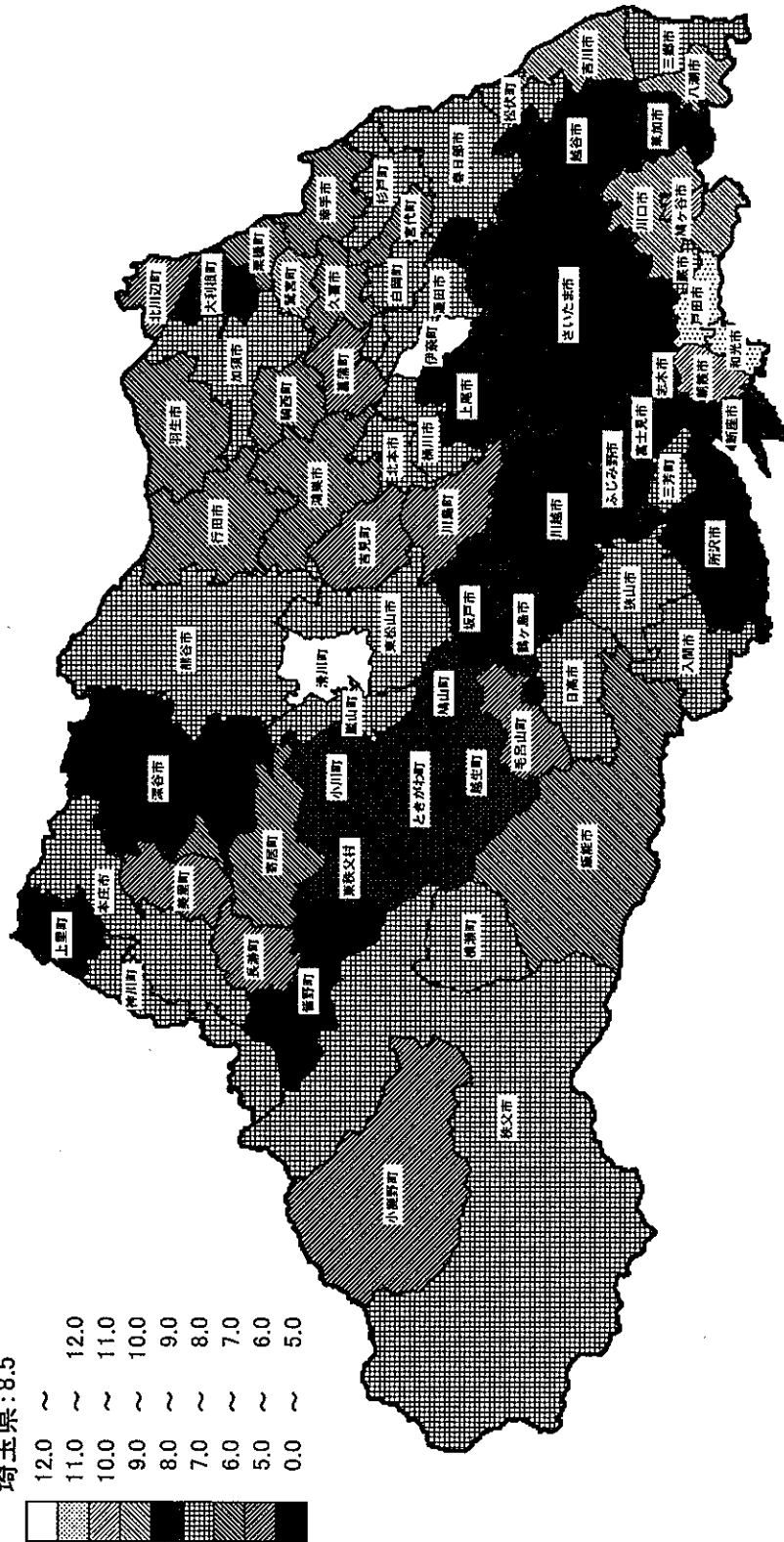
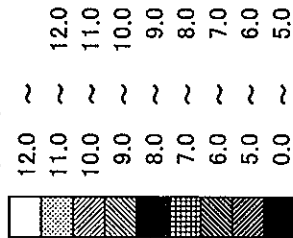
順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	伊奈町	12.6	25	坂戸市	8.0	49	鴻巣市	6.8
2	滑川町	12.3	26	皆野町	8.0	50	行田市	6.7
3	戸田市	11.4	27	蓮田市	8.0	51	羽生市	6.7
4	和光市	11.3	28	三郷市	7.9	52	栗橋町	6.5
5	朝霞市	10.3	29	蕨市	7.8	53	幸手市	6.4
6	鳩ヶ谷市	10.0	30	白岡町	7.7	54	宮代町	6.4
7	吉川市	9.7	31	熊谷市	7.7	55	飯能市	6.3
8	川口市	9.4	32	日高市	7.6	56	寄居町	6.2
9	八潮市	9.3	33	横瀬町	7.6	57	騎西町	6.1
10	鷲宮町	9.2	34	三芳町	7.6	58	小鹿野町	5.9
11	さいたま市	9.0	35	桶川市	7.6	59	毛呂山町	5.8
12	富士見市	8.9	36	加須市	7.5	60	北川辺町	5.7
13	新座市	8.9	37	入間市	7.5	61	美里町	5.6
14	ふじみ野市	8.9	38	神川町	7.5	62	菖蒲町	5.5
15	草加市	8.8	39	北本市	7.4	63	長瀨町	5.3
16	越谷市	8.6	40	杉戸町	7.4	64	川島町	5.1
17	鶴ヶ島市	8.6	41	春日部市	7.4	65	吉見町	5.1
18	上尾市	8.5	42	本庄市	7.4	66	小川町	4.9
19	上里町	8.5	43	狭山市	7.2	67	越生町	4.8
20	所沢市	8.4	44	松伏町	7.2	68	東秩父村	4.0
21	深谷市	8.4	45	東松山市	7.2	69	鳩山町	4.0
22	志木市	8.4	46	嵐山町	7.1	70	ときがわ町	3.9
23	川越市	8.2	47	秩父市	7.1			
24	大利根町	8.1	48	久喜市	6.9			

注 率は人口千対

图一3 市町村別出生率状況表

全国 : 8.5

埼玉県 : 8.5



## エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からは減少傾向にあった。平成21年は再び上昇した。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）以降下降を続けていたが、平成6年以降平成8年（38.1%）をピークにやや上昇した。その後再び下降と上昇を繰り返して、ここ数年は37%前後で推移している。

図-4 出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)

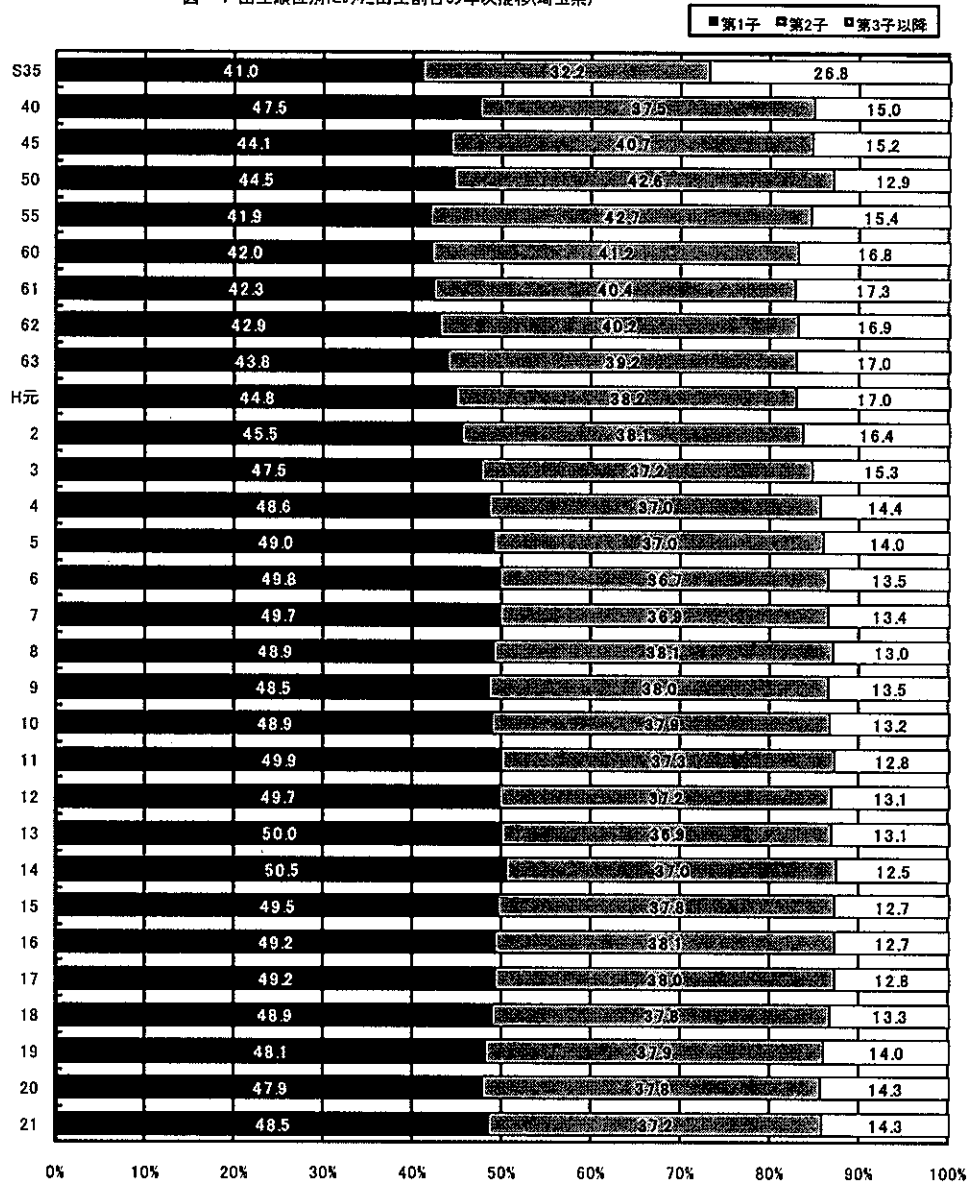


表-5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
							%	%	%	%	%	%
昭和 35 年	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
平成 元 年	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6

注 第5子以降には不詳を含む

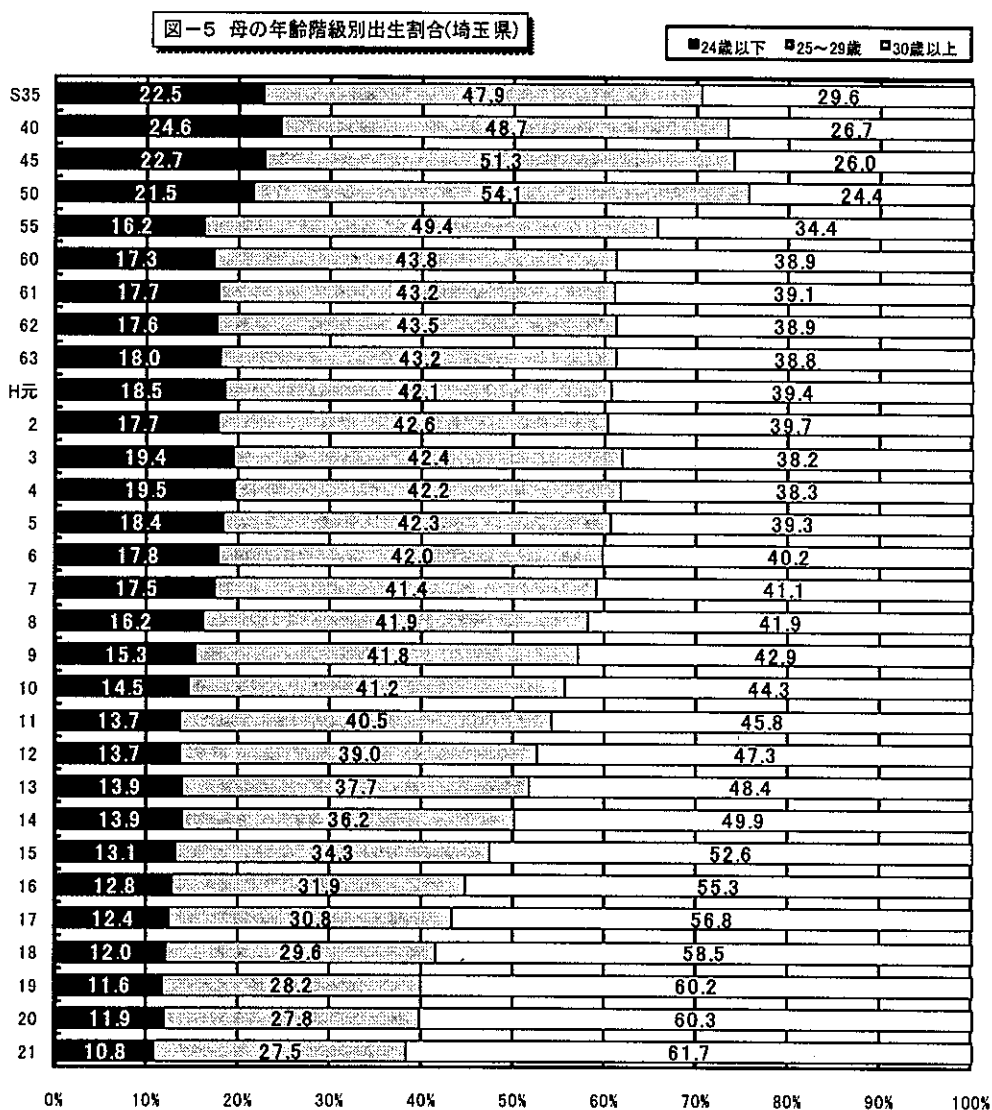


オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少しており、平成21年は27.5%である。

また、24歳以下は平成5年以降減少傾向にあり、平成21年は10.8%で前年の11.9%を1.1ポイント下回った。

30歳以上は増加を続け、平成19年からは出生数全体の6割を超え、平成21年は61.7%となった。



(2) 死 亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は52,374人で、前年より644人増加した。

死亡率は、人口千人に対し7.4で前年と同率であった。全国(9.1)より1.7ポイント低くなっている。

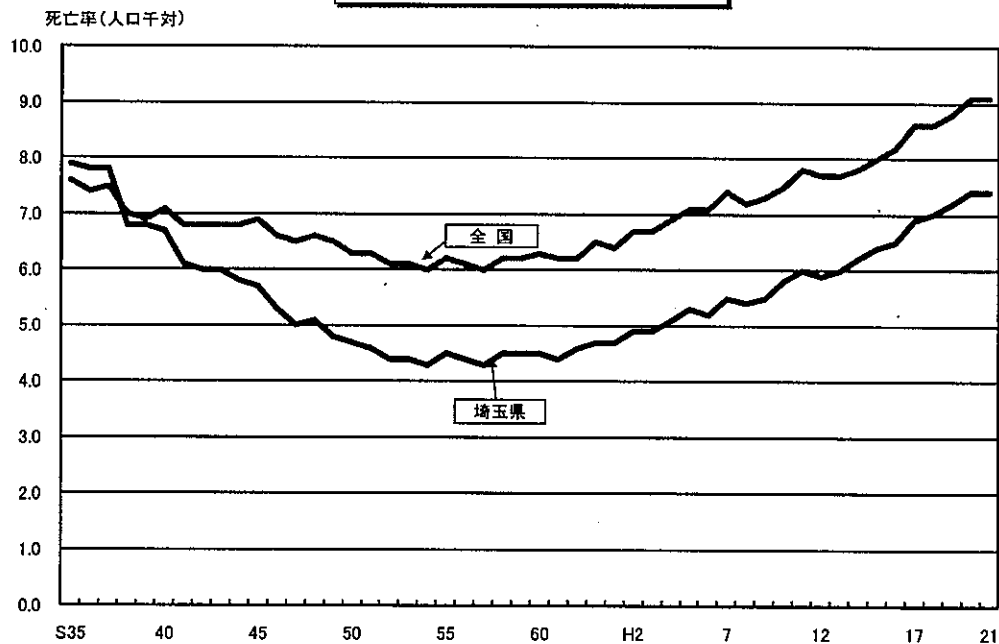
死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、45年5.7、50年4.7、55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和60年以降平成13年まで、昭和62年を除き低率順で第1位、平成14、15年は沖縄県に次いで第2位、16年からは沖縄県及び神奈川県に次いで第3位となっている。

表-6 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	19	20	21
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799	40 486	48 095	50 134	51 730	52 374
	全国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139	961 653	1 083 796	1 108 334	1 142 407	1 141 865
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5	5.9	6.9	7.2	7.4	7.4
	全国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	8.8	9.1	9.1

図-6 死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



イ 死因別死亡数及び死亡率

死因別にみると、死亡数は、①悪性新生物 16,531 人(死亡総数の 31.6%)、②心疾患 8,655 人(16.5%)、③脳血管疾患 5,629 人(10.7%)、④肺炎 5,050 人(9.6%)、⑤自殺 1,720 人(3.3%)、⑥不慮の事故 1,513 人(2.9%)となった。

また、死亡率(人口 10 万対)は、悪性新生物(234.8)が 1.4 ポイント、肺炎(71.7)が 0.1 ポイント、自殺(24.4)が 1.0 ポイント、不慮の事故(21.5)が 1.4 ポイント上昇し、一方で、心疾患(122.9)が 2.3 ポイント、脳血管疾患(79.9)が 3.3 ポイント低下した。

表-7 主な死因別死亡数及び死亡率(対前年比較)

埼玉県

死 因	平成21年			平成20年		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	52 374	743.8	100.0	51 730	737.0	100.0
悪性新生物	16 531	234.8	31.6	16 381	233.4	31.7
心 疾 患	8 655	122.9	16.5	8 791	125.2	17.0
脳血管疾患	5 629	79.9	10.7	5 841	83.2	11.3
肺 炎	5 050	71.7	9.6	5 027	71.6	9.7
自 殺	1 720	24.4	3.3	1 643	23.4	3.2
不慮の事故	1 513	21.5	2.9	1 413	20.1	2.7
老 衰	1 414	20.1	2.7	1 366	19.5	2.6
腎 不 全	977	13.9	1.9	940	13.4	1.8
肝 疾 患	803	11.4	1.5	759	10.8	1.5
糖 尿 病	689	9.8	1.3	718	10.2	1.4
小 計	42 981	610.4	82.1	42 879	610.9	82.9
そ の 他	9 393	133.4	17.9	8 851	126.1	17.1

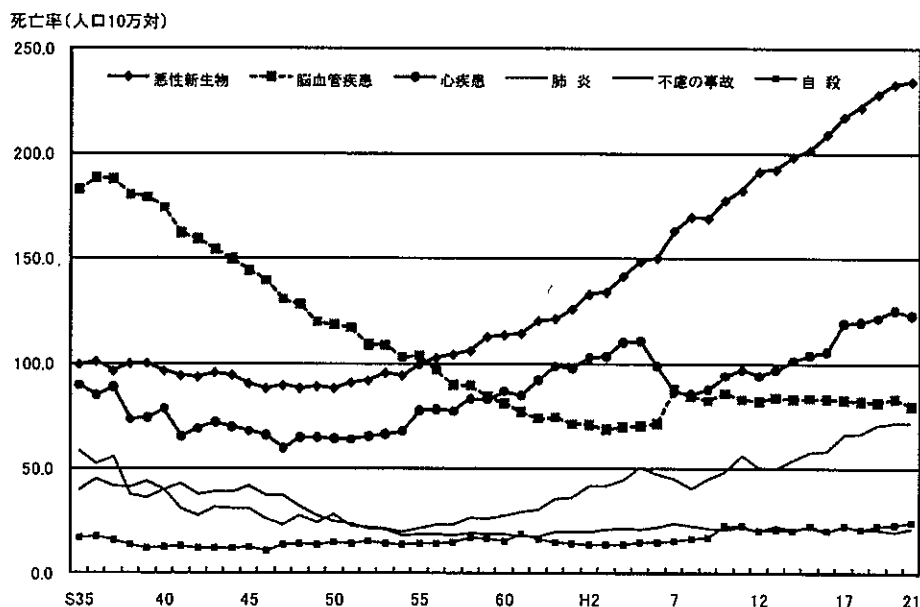
死因別に死亡率（人口 10 万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和 55 年以降概ね上昇を続け、平成 15 年には 200.0 を超えた。また、昭和 56 年以降は死因順位第 1 位である。

心疾患は、緩やかに上昇しており、平成 14 年から 100.0 を越えている。

脳血管疾患は緩やかな低下傾向にある。

なお、平成 6・7 年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる。

図-7 主要死因別死亡率の年次推移(埼玉県)



※死因分類 (ICD-10) 及び死亡診断書の改正による影響

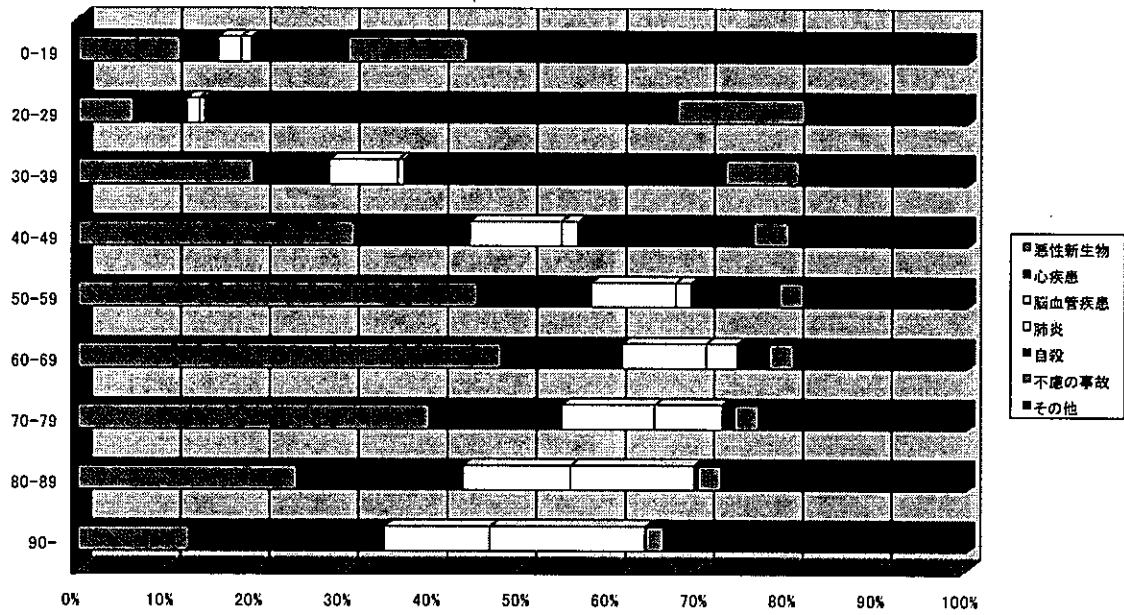
心疾患の平成 6 年から 3 年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成 7 年 1 月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成 7 年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、10 歳代まででは不慮の事故、20 歳代、30 歳代では自殺、40～80 歳代では悪性新生物、90 歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。

図-8 年齢階級別にみた主要死因別割合



ウ 3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）

死因別死亡数の上位を占める3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡数は30,815人で死亡総数の58.8%を占めている。

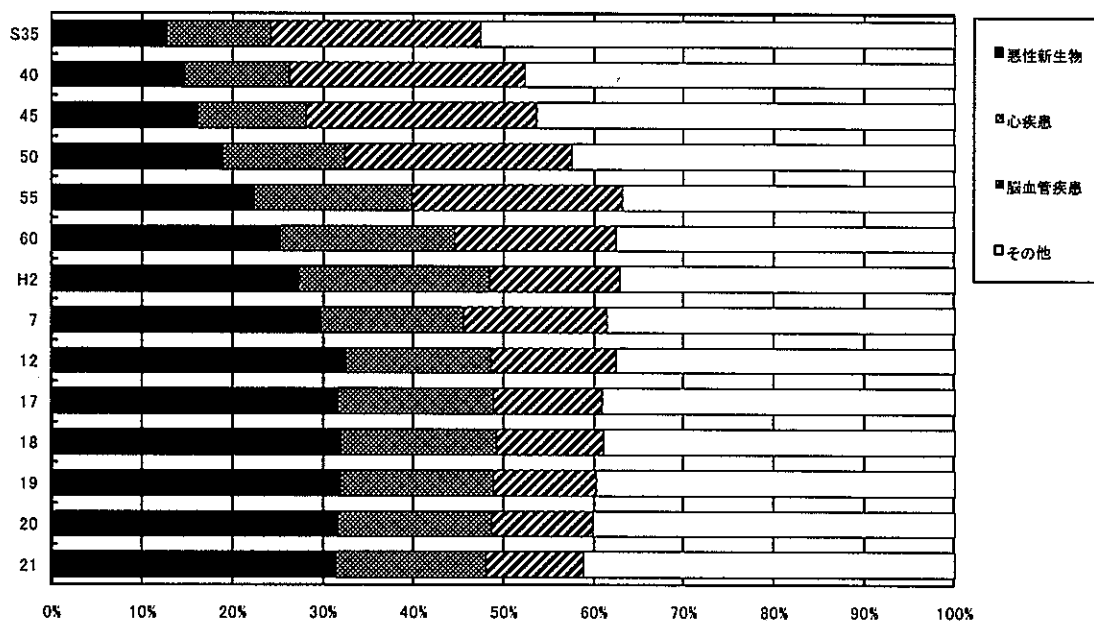
年齢階級別に3大死因による死亡数をみると、80～89歳の8,769人が最も多く、70～79歳の8,592人、60～69歳の6,074人の順である。

各年齢階級別の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が70.7%で最も高く、次いで50～59歳の67.2%、70～79歳の64.9%の順で前年と変わらない。

表－8 3大死因による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	52 374	349	352	761	1 477	3 467	8 587	13 236	15 821	8 324
3大死因による死亡数	30 815	63	48	274	802	2 331	6 074	8 592	8 769	3 862
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.2%	0.9%	2.6%	7.6%	19.7%	27.9%	28.5%	12.5%
死亡総数に占める割合	58.8%	18.1%	13.6%	36.0%	54.3%	67.2%	70.7%	64.9%	55.4%	46.4%

図－9 3大死因死亡数の死亡総数に占める割合(埼玉県)



(ア) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は 16,531 人で、死亡総数の 31.6 %を占めている。全死亡者のおよそ 3 人に 1 人は悪性新生物で死亡したことになる。

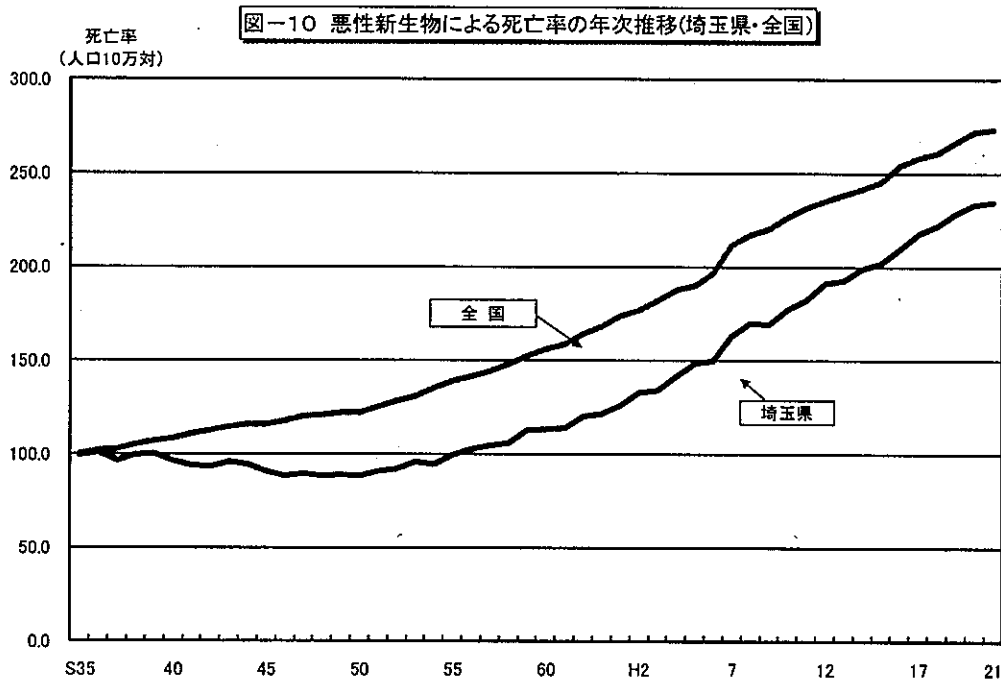
年齢階級別にみると、70～79 歳が 5,244 人で最も多く、60～69 歳が 4,092 人、80～89 歳が 3,916 人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69 歳が 47.7%と最も多く、50～59 歳 44.9%、70～79 歳 39.6%の順となっている。

死亡率（人口 10 万対）は、234.8 で上昇を続けている。全国は 273.5 である。

表－9 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	52 374	349	352	761	1 477	3 467	8 587	13 236	15 821	8 324
悪性新生物による死亡数	16 531	40	22	150	460	1 558	4 092	5 244	3 916	1 049
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.1%	0.9%	2.8%	11.4%	24.8%	31.7%	23.7%	6.3%
死亡総数に占める割合	31.6%	11.5%	6.3%	19.7%	31.1%	44.9%	47.7%	39.6%	24.8%	12.6%



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,185人(19.3%)で最も多く、次いで「胃」が2,507人(15.2%)、「大腸」2,165人(13.1%)の順となっている。

図-11 悪性新生物の部位別割合の推移(埼玉県)

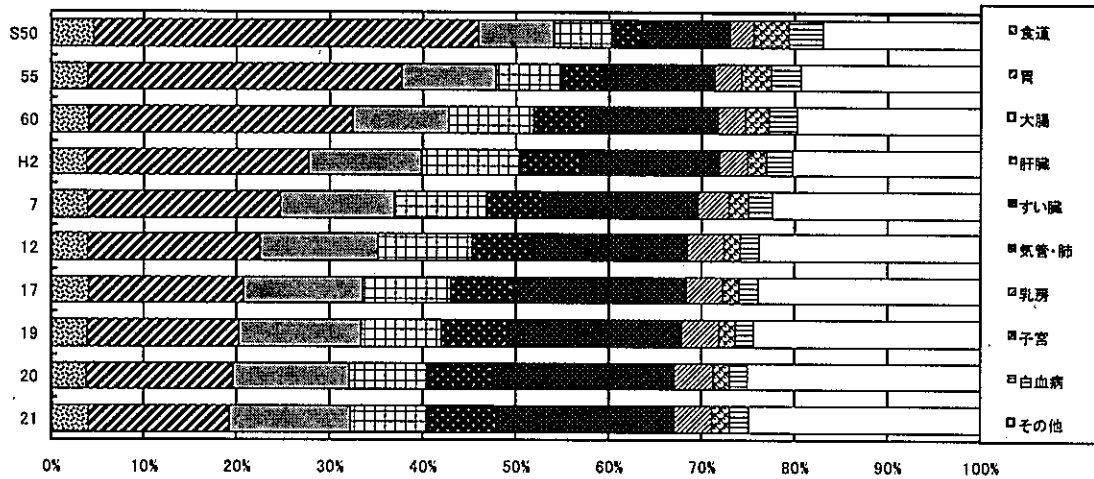


表-10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県											
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	20	21
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	16 381	16 531
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	616	658
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 579	2 507
大腸	...	...	...	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 068	2 165
(結腸)	...	...	...	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 339	1 403
(直腸)	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	729	762
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 392	1 375
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 141	1 192
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 176	3 185
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	686	677
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	289	306
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	315	337
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 119	4 129
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	5.0	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.1	3.8	4.0
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	15.2
大腸	...	...	...	8.1	10.1	10.3	12.1	12.3	12.7	12.7	12.6	13.1
(結腸)	...	...	...	4.2	5.4	6.1	7.8	8.0	8.4	8.4	8.2	8.5
(直腸)	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.6
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	10.0	10.2	9.5	8.5	8.3
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.0	7.2
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	19.4	19.3
乳房	1.7	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.2	4.1
子宮	5.7	5.4	4.0	3.8	3.1	2.5	2.0	2.1	1.8	1.7	1.8	1.9
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	1.9	2.0
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.1	25.0



(イ) 心疾患

心疾患による死亡数は8,655人で、死亡総数の16.5%を占めている。

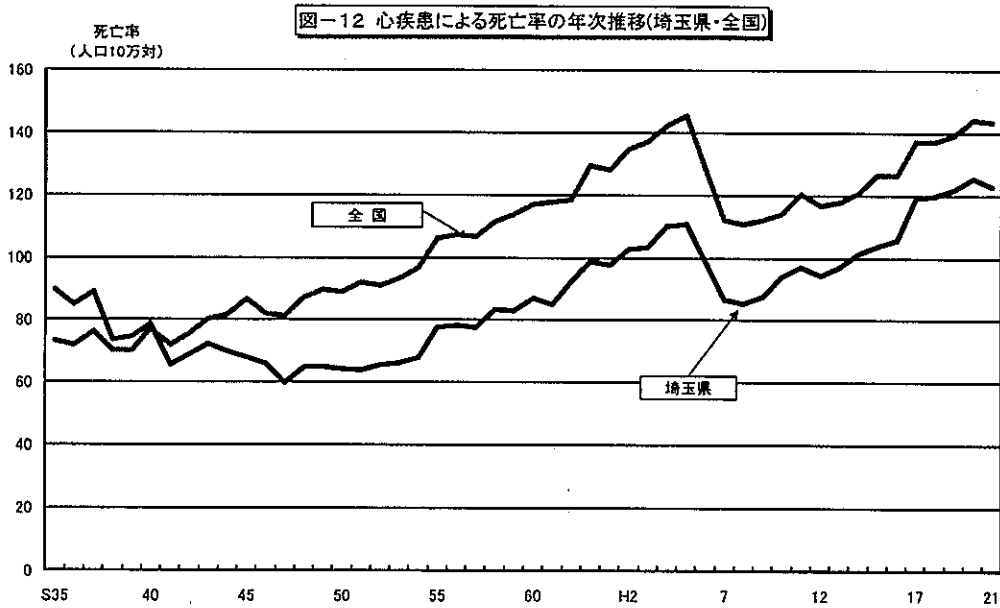
年齢階級別にみると、80～89歳が2,950人で最も多く、70～79歳が1,967人、90歳以上が1,829人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が22.0%で最も多く、80～89歳が18.6%、70～79歳が14.9%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は122.9で、平成12年から上昇を続けていたが、9年ぶりに前年（125.2）を下回った。全国は143.7である。

表-11 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	52,374	349	352	761	1,477	3,467	8,587	13,236	15,821	8,324
心疾患による死亡数	8,655	14	21	66	191	445	1,172	1,967	2,950	1,829
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.2%	0.2%	0.8%	2.2%	5.1%	13.5%	22.7%	34.1%	21.1%
死亡総数に占める割合	16.5%	4.0%	6.0%	8.7%	12.9%	12.8%	13.6%	14.9%	18.6%	22.0%



(ウ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,629人で、死亡総数の10.7%を占めている。

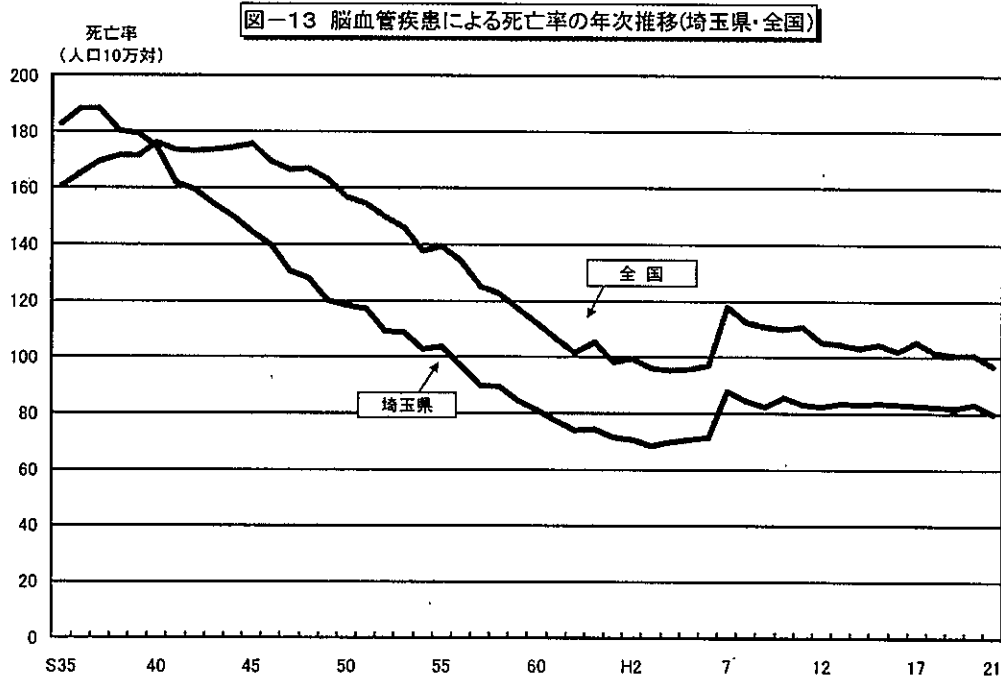
年齢階級別にみると、80～89歳が1,903人で最も多く、70～79歳が1,381人、90歳以上が984人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、80～89歳が12.0%で最も多く、90歳以上が11.8%、70～79歳が10.4%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は、79.9で近年は横ばいに推移している。全国は97.2である。

表-12 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	52 374	349	352	761	1 477	3 467	8 587	13 236	15 821	8 324
脳血管疾患による死亡数	5 629	9	5	58	151	328	810	1 381	1 903	984
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.1%	1.0%	2.7%	5.8%	14.4%	24.5%	33.8%	17.5%
死亡総数に占める割合	10.7%	2.6%	1.4%	7.6%	10.2%	9.5%	9.4%	10.4%	12.0%	11.8%



エ 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,513人で、前年に比べ100人増加した。

年齢階級別にみると、80～89歳が423人で最も多く、次いで70～79歳が373人と続いている。

死亡率は、人口10万人に対し21.5で前年より1.4ポイント上昇した。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は332人で、前年に比べ10人減少した。

死亡率は、人口10万人に対し4.7で前年に比べ0.2ポイント低下した。

全国は、不慮の事故30.0、交通事故5.8である。

表-13 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
不慮の事故による死亡数	1 513	47	51	62	59	97	237	373	423	164
(各年齢階級別割合)	100.0%	3.1%	3.4%	4.1%	3.9%	6.4%	15.7%	24.7%	28.0%	10.8%
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	332	25	31	30	17	31	70	71	50	7
不慮の事故に占める交通事故の割合	21.9%	53.2%	60.8%	48.4%	28.8%	32.0%	29.5%	19.0%	11.8%	4.3%

表-14 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故					交通事故				
	埼玉県		全国		埼玉県		全国			
	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	20.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.4	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	24.9	33 710	30.3	628	13.0	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.7	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
14	1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4
15	1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2
16	1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
18	1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	23.6
19	1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8
20	1 413	20.1	38 153	30.3	342	4.9	24.2	7 499	6.0	19.7
21	1 513	21.5	37 756	30.0	332	4.7	21.9	7 309	5.8	19.4

注 昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

## オ 自殺

自殺による死亡数は1,720人(男性1,217人、女性503人)で、前年より77人増加した。死亡率は、人口10万人に対し24.4で、前年の23.4を1.0ポイント上回った。

年齢階級別にみると、50～59歳が343人(20.0%)で最も多く、次いで60～69歳が314人(18.3%)となっている。

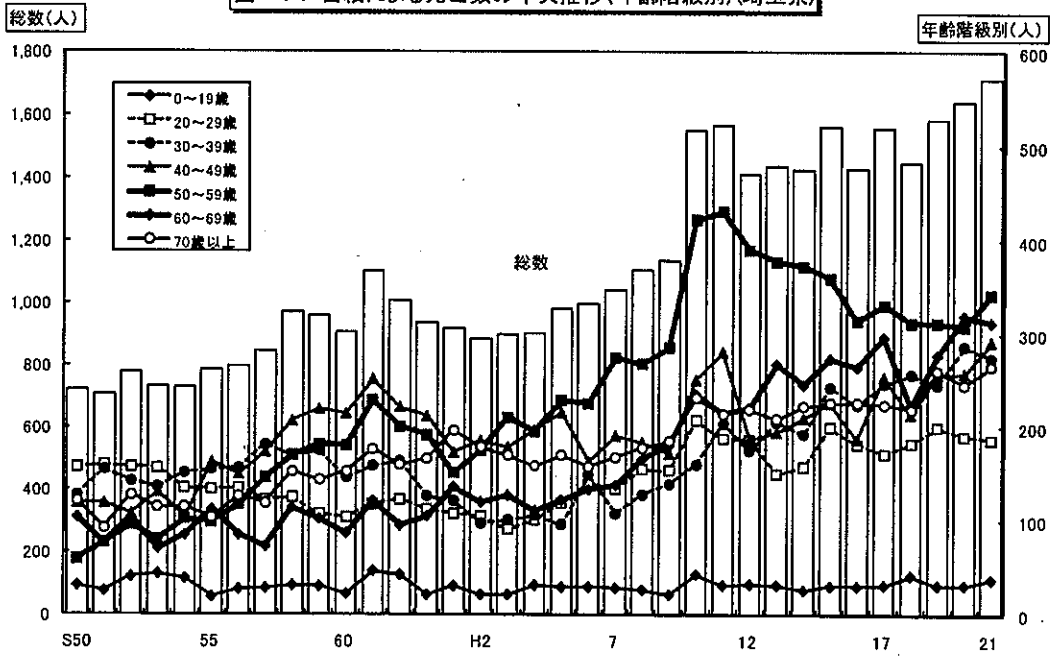
表-15 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

		埼玉 県												
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	19	20	21
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 585	1 643	1 720
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	30 827	30 229	30 707
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.5	15.5	13.8	15.6	20.6	22.4	22.6	23.4	24.4
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	24.4	24.0	24.4

表-16 自殺による死亡数及び割合の年次推移(年齢階級別)

		埼玉 県								
		総数	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
		人	人	人	人	人	人	人	人	
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50	
	40	375	32	88	65	36	37	59	58	
	45	480	28	117	81	53	57	62	82	
	50	723	32	158	128	119	60	104	122	
	55	787	20	134	155	163	99	112	104	
	60	909	23	104	146	215	181	87	153	
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179	
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168	
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219	
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225	
	18	1 452	42	183	257	214	313	223	220	
	19	1 585	32	200	246	256	312	278	261	
	20	1 643	32	191	287	258	309	320	246	
	21	1 720	38	188	277	293	343	314	267	
	S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.6	11.4	12.1
		40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5
		45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1
50		100.0	4.4	21.8	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9	
55		100.0	2.6	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2	
60		100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8	
H		2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.5	20.2
		7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
		12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
		17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
		18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.7	21.6	15.4	15.2
	19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5	
	20	100.0	1.9	11.6	17.5	15.7	18.8	19.5	15.0	
	21	100.0	2.2	10.9	16.1	17.0	19.9	18.3	15.5	

図-14 自殺による死亡数の年次推移(年齢階級別)(埼玉県)



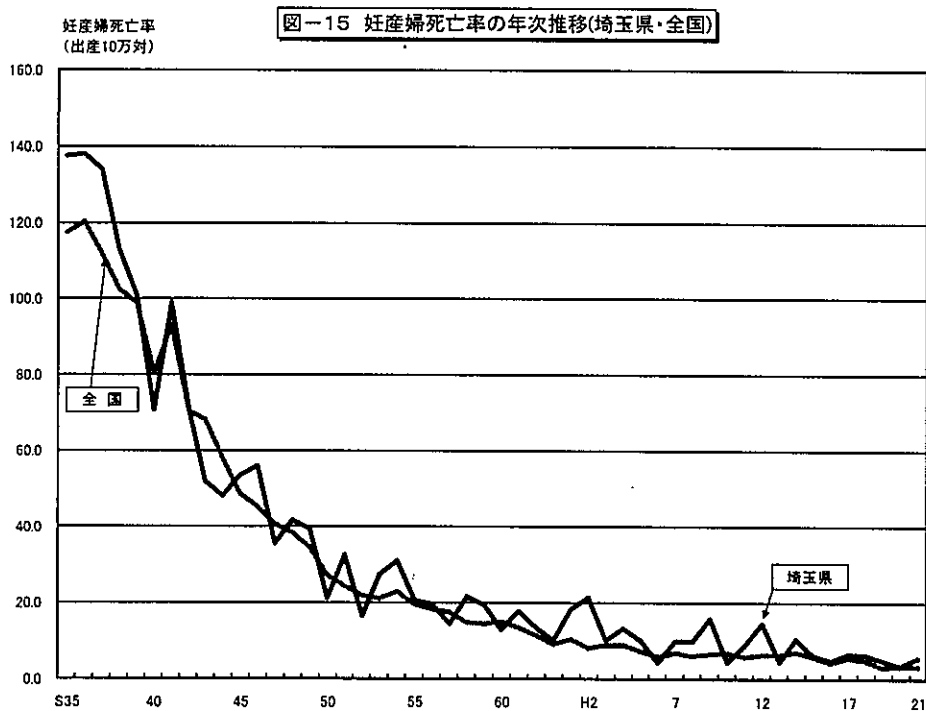
## カ 妊産婦死亡

妊産婦死亡は、2人であった。妊産婦死亡率は、出産10万人（胎）に対し3.3であった。

表-17 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	19	20	21
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	3	2	2
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	35	39	61
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	4.8	3.2	3.3
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	3.1	3.5	5.6

注 率は出産（出生＋死産）10万対。平成21年の妊産婦死亡数は死因分類番号15000「妊娠、分娩及び産じよく」の数を用いた。



キ 市町村別にみた死亡

市町村別にみると、低率順では和光市(4.7)、戸田市(5.3)、朝霞市(5.7)の順である。また、高率順では、東秩父村(16.7)、横瀬町(14.1)、小鹿野町(13.8)の順である。

表-18 市町村別にみた死亡率(低率順)

埼玉県								
順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	4.7	25	狭山市	7.3	49	本庄市	9.2
2	戸田市	5.3	26	川越市	7.3	50	北川辺町	9.3
3	朝霞市	5.7	27	入間市	7.3	51	行田市	9.4
4	伊奈町	5.8	28	春日部市	7.4	52	飯能市	9.6
5	鶴ヶ島市	5.9	29	宮代町	7.4	53	加須市	9.7
6	志木市	6.0	30	ふじみ野市	7.4	54	鳩山町	9.8
7	滑川町	6.0	31	久喜市	7.5	55	寄居町	9.9
8	吉川市	6.0	32	蕨市	7.7	56	羽生市	9.9
9	三郷市	6.3	33	鳩ヶ谷市	7.7	57	小川町	10.4
10	上尾市	6.4	34	鴻巣市	7.8	58	嵐山町	10.4
11	新座市	6.4	35	上里町	7.8	59	菖蒲町	10.5
12	草加市	6.5	36	桶川市	7.9	60	ときがわ町	10.5
13	越谷市	6.5	37	蓮田市	8.0	61	大利根町	10.9
14	さいたま市	6.6	38	栗橋町	8.2	62	神川町	11.2
15	所沢市	6.7	39	白岡町	8.2	63	秩父市	12.0
16	富士見市	6.7	40	日高市	8.5	64	美里町	12.7
17	三芳町	6.7	41	東松山市	8.5	65	越生町	12.7
18	坂戸市	6.8	42	深谷市	8.6	66	長瀨町	12.8
19	川口市	6.9	43	熊谷市	8.8	67	皆野町	13.5
20	八潮市	7.1	44	川島町	8.8	68	小鹿野町	13.8
21	杉戸町	7.1	45	幸手市	8.8	69	横瀬町	14.1
22	北本市	7.1	46	騎西町	9.1	70	東秩父村	16.7
23	鷲宮町	7.3	47	吉見町	9.1			
24	松伏町	7.3	48	毛呂山町	9.2			

注 率は人口千対

图一16 市町村別死亡率状況图

